

道徳の時間の指導

～学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」～

埼玉県教育局東部教育事務所

小・中学校においては、週1時間の道徳の時間が設けられています。道徳の時間の指導は、原則として学級担任が授業を行います（小・中学校学習指導要領解説道徳編第5章第4節）。その理由としては、学級担任が児童生徒に関する情報を多く持ち合わせており、その実態に精通していること、時間的にもふれあうことが多く、継続的に道徳性の成長を見ることができることなどが挙げられます。

学級担任には、教科の学習によって児童生徒に専門的な知識等を身に付けさせる役割とともに、道徳の時間を通じて人間としての生き方について考えを深め、自覚させ、道徳的実践力を育成する役割があります。学級経営を行う上では、この2つの役割を相互に関わらせ、総合的に扱うことが求められます。ここでは、学級経営の視点から、道徳の時間の指導の具体について考えてみることにします。



1 道徳教育と道徳の時間の関係

(1) 教育活動全体を通じて行う道徳教育

学校における道徳教育は、人間尊重の精神に基づいて、未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う教育活動です。すなわち、児童生徒一人一人のよりよく生きようとする願いに即して、人間としての生き方についての自覚を深めさせ、生き方にかかわっている道徳的価値を自覚し、実践できるようになることを目指して行われるものです。

従って、道徳教育は、ある限られた特定の時間に指導すれば事足りるというものではなく、学校の教育活動全体を通じて行われて初めて効果を上げ得るものです。各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など、教育活動のありとあらゆる場面で、道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことが大切です。

(2) 学校における道徳教育の「要」となる道徳の時間

道徳教育の目標

(小・中学校学習指導要領 総則 第1の2、道徳 第1)

学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。

〔道徳教育の実施〕

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動のそれぞれの特質に応じて行うとともに、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。

週1時間の道徳の時間では、児童生徒が各教科等（教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動）で学習した道徳的価値を人間としての在り方や生き方という視点から捉え直し、自分のものとして発展させることで、より道徳的価値の自覚を深めることができます。つまり、道徳の時間は、学校の教育活動全体で行う道徳教育（扇）の「要」となる時間ということが出来ます。



【要としての道徳の時間】

道徳の時間の目標

(小・中学校学習指導要領 道徳 第1 目標)

道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。

〔道徳の時間の役割〕

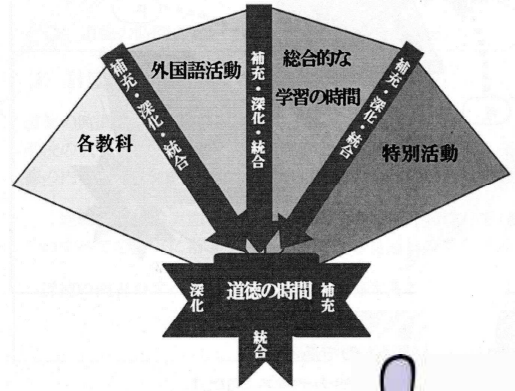
各活動における道徳教育の「要」として、それを補充し、深化し、統合する役割を果たす。

道徳の時間の「要」としての役割は、以下の3点にまとめられます(学習指導要領解説道徳編)。

補充…学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補充する役割

深化…体験の中では、必ずしもじっくり考え、深めることができない、道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて、一層考えを深化させる役割

統合…多様な体験活動とそれぞれがもつ道徳的価値について、統合し、児童生徒に新たな感じ方や生き方を生み出す役割



(3) 道徳の時間の授業を行う前に確認しておくこと

① 道徳の内容項目 ～小・中学校の学習指導要領から～

学習指導要領で校種・当該学年で扱う道徳の内容項目を確認します。

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

学習指導要領解説編(全教科等)の付録に掲載されています

小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年
<p>1 主として自分自身に関すること</p> <p>(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。</p> <p>(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。</p> <p>(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。</p> <p>(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。</p>	<p>(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。</p> <p>(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。</p> <p>(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。</p> <p>(4) 過ちは素直に認め、正直に明るい心で元気に生活する。</p> <p>(5) 自分の特徴に賛賞し、よい所を伸ばす。</p>
<p>2 主として他の人とのかかわりに関すること</p> <p>(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。</p> <p>(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。</p> <p>(3) 友達と仲よくし、助け合う。</p> <p>(4) 日々を世話になっている人々に感謝する。</p>	<p>(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。</p> <p>(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。</p> <p>(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。</p> <p>(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。</p>
<p>3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること</p> <p>(1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。</p> <p>(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。</p> <p>(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。</p>	<p>(1) 生命の尊さを感受し、生命あるものを大切にすることを知る。</p> <p>(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすることを知る。</p> <p>(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。</p>
<p>4 主として集団や社会とのかかわりに関すること</p> <p>(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることを知る。</p> <p>(2) 働くことよきを感じて、みんなのために働く。</p> <p>(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。</p> <p>(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。</p> <p>(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。</p>	<p>(1) 約束や社会のきまりを守り、公徳心をもつ。</p> <p>(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。</p> <p>(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家族をつくる。</p> <p>(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。</p> <p>(5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。</p>

小学校第5学年及び第6学年	中学校
<p>(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を直直し、節度を守り節制に心掛ける。</p> <p>(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけずに努力する。</p> <p>(3) 自由を大切に、自律的で責任のある行動をする。</p> <p>(4) 誠実に、明るく楽しく生活する。</p>	<p>(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛ける生活をする。</p> <p>(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。</p> <p>(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。</p> <p>(4) 真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。</p> <p>(5) 自分の特徴を知って、悪い所を改めてより所を積極的に伸ばす。</p>
<p>(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。</p> <p>(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。</p> <p>(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。</p> <p>(4) 謙遜な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを知る。</p> <p>(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにとたえる。</p>	<p>(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。</p> <p>(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に思いやりやりの心をもつ。</p> <p>(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。</p> <p>(4) 男女は、互いに個性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。</p> <p>(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いるいるのものの見方や考え方が異なることを理解して、異議の心をもち謙遜に他に学ぶ。</p> <p>(6) 多くの人の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにとたえる。</p>
<p>(1) 生命がかげがえのないものであることと知り、自他の生命を尊重する。</p> <p>(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすることを知る。</p> <p>(3) 美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。</p>	<p>(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもつ。人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。</p> <p>(3) 人間には弱さや犠牲を克服する強さや気高さがあることを感じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。</p>
<p>(1) 公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。</p> <p>(2) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。</p> <p>(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。</p> <p>(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを感じて公徳心のために役に立つことを学ぶ。</p> <p>(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことを学ぶ。</p> <p>(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。</p> <p>(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。</p>	<p>(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。</p> <p>(2) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。</p> <p>(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。</p> <p>(4) 自分が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。</p> <p>(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもつて、心身の発達と社会の発展に努める。</p> <p>(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。</p> <p>(7) 学級や学校の一人一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。</p> <p>(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。</p> <p>(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。</p> <p>(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野を持って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。</p>

自分が受け持つ学年と、その前後の学年・学校段階の内容項目がどのようなものなのかを確認した上で、道徳の時間の授業を設計していきます

② 道徳教育の全体計画 ～自校の教育計画から～

道徳教育を推進するために、学校では、校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育の全体計画を作成しています。これは、各学校の道徳教育の重点目標の達成について、それぞれの教育活動が果たす役割を明らかにしたものです（学習指導要領解説道徳編第4章第2節）。

【道徳教育の全体計画の例】

【道徳教育 全体計画（別業）の例】

平成〇〇年度 関係法規等		道徳教育 全体計画	
○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○学習指導要領 ○埼玉県小学校教育課程編成要領 ・埼玉県指導の重点・努力点	○進んで学ぶ子 ○思いやりのある子のたくましく行動する子	○国際化、情報化などの教育課題や社会変化への対応 ・道徳教育の改善・充実	○時代や社会の要請・課題 ・道徳教育の改善・充実
○埼玉県教育行政重点施策 ○〇〇市教育行政重点施策	○道徳教育の基本方針 ○道徳の時間と教育活動全体を関連させ、全教職員で実践力を育てる道徳教育の推進	○教職員や保護者の願い ・生命を大切にする ・自他を尊重する	○児童の実態 ・明るく穏やか ・奉仕性に富む ・周囲の雰囲気の流れやすい
各学年の重点目標			
低学年	○礼を正し、友だちと仲良くする。 ○みんなですぐ物大切に、約束や決まりを守る。	○友だちと互いに理解し信頼し合う。 ○約束や社会の決まりを守り、公德を大切にする。	○広い心を持ち、相手の立場を尊重する。 ○命のかけがえのなさを知り、自他の生命を尊重する。
各教科	○各教科、外国語活動、特別活動などで行われる道徳教育を補充・深化・統合する。 ○道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。 ○一人一人が自分の感じ方や考え方を安心して表現できる学級経営を行う。 ○児童が自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をつよにする。 ○児童に教え込もうとしない。	○実践を通して、基本的な生活習慣の向上を図り、正しい判断の下に行動できる能力や態度を育てる。	○規程ある程度の3内容 を身に付ける
外国語活動	○外国語活動	○外国語活動	○外国語活動
特別活動	○特別活動	○特別活動	○特別活動
総合的な学習の時間	○総合的な学習の時間	○総合的な学習の時間	○総合的な学習の時間
学校環境の整備・充実 ○明るく楽しい学校生活を送れるようにする。 ・人間関係の充実 ・道徳的な雰囲気づくり ・校舎校庭、教室の整備			
人権教育 ○人権を尊重し、偏見や差別を許さない態度を養う。			
幼・中・高・家庭・地域社会との連携 ○家庭、地域社会と一体となった教育環境をつくり、同一歩調で子育てに当たる。（幼・保・中の連絡協議、学校評議員会、学校応援団、道徳教育推進会議）			

平成〇〇年度 第5学年		道徳教育 全体計画 一別業一		〇〇市立△△小学校			
内容	項目	国語	社会	算数	理科	各教科等	
主として自分自身に関する事	1-1(1) 思慮・反省 節度・節制	自分の考えを伝えるスピーチをしよう		小数の計算の仕方を考えよう			
	1-1(2) 人間の生き方を不とう不屈勇気・希望 認めよう	人間の生き方をえがいた作品を		小数のしくみを調べよう			
	1-1(3) 自由・責任	情報社会に生きる	12	円をくわく調べよう	2	わたしたちの気象台	
	1-1(4) 誠実・明朗	表現の工夫を考えながら声を出して話そう					
	1-1(5) 創意・進取	いろいろな角度から考えて書こう	12	天気気が気になるときは		流れる水のはたらき	
	1-1(6) 個性伸長	身近な生活について討論しよう			9	おもりが動くとき	
	主として他者に関する事	2-1(1) いろいろな角度から考えて書こう					さらに計算のしかたを考えよう
		2-1(2) 思いやり、親切				11	分数を調べよう
	主として	2-1(3) 語の組み立てをくふうして				7	三角形の角を調べよう
		2-1(4) 謙虚・寛容	木産業	5			ものどけ方
	主として	3-1(1) 強く心に残ったことを考えながら話そう	自然を生かしたくらし	1			動物の誕生
		3-1(2) いろいろな環境を守ろう	環境を守る	2			植物の発芽と成長
3-1(3) 自然環境について調べる							

全体計画を見て関係する部分を確認します(枠の部分など)

▶道徳教育の全体計画

学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに学校の教育活動全体を通して道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画。



▶道徳教育の全体計画（別業）

道徳教育の全体計画の一覧表として次の内容等を示したものを。

- ◆各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を示したものを
- ◆道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるものを
- ◆道徳教育の推進体制や家庭や地域等との連携のための活動等がわかるものを

自校の道徳教育の全体計画及びその別業（全体計画の一覧表）を参照し、自校の道徳教育と道徳の時間の関連、当該学年の重点目標、道徳の時間の指導方針等を確認し、授業で扱う内容項目における道徳の時間と他の教育活動との関連を洗い出します。

③ 道徳教育の学級における指導計画 ～自校の教育計画から～

道徳教育の学級における指導計画は、全体計画を児童生徒や学級の実態に応じて具体化し、学級において教師や児童生徒の個性を生かした道徳教育を展開するための指針です。学級担任として年度当初に作成し、自らの学級経営において、どのように道徳教育を行っていくかを示したものですから、道徳の時間の授業を実践する上でも、常に確認する必要があります（学習指導要領解説道徳編第4章第4節）。

▶道徳教育の学級における指導計画

学校や学年の道徳教育の方針を受け、道徳教育の全体計画に基づき、基本的に学級担任の教師が創意工夫して作成する指導計画。

【学級における指導計画の例】

平成〇〇年度 児童の道徳性の発展 ・明るく元気で男女の仲がよい。	学年の重点目標 ○自分のよさを生かし、目標に向かい最後までやりぬく。	教師・保護者の願い ○既習事項を活用しながら自ら考え、判断し、行動する。
学級における指導計画との一貫性を確認します		
<p>道徳の時間における指導</p> <p>○児童個々の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と実践的態度の向上を図ることによって道徳的実践力を育成する。</p> <p>・道徳の時間は、自分を見つめる時間、自分の心に静かに耳を傾け、自分の心と対話しよう。</p>	<p>学級の道徳教育の基本方針</p> <p>○公徳心をもって法やきまりを守るとともに、偏見をもつことなく公正・公平にし、正義の実現に努める。</p> <p>○節度、節制に心掛け、高い目標を立て、希望と勇氣をもって最後までやりぬく強い意志をもつ。</p>	<p>児童の願い</p> <p>○目標に向かってあきらめず最後まで努力する。</p> <p>○下級生から頼りにされる上級生になる。</p>
<p>教師の願いを表現するための具体的な手立て</p> <p>○自他の違いを知り、それを受け止め、ともに成長しようとする児童の姿を「私もいい、あなたもいい」(1)基本的な生活習慣に関する指導を通して</p> <p>①「〇〇つ三つの約束」を徹底する。</p> <p>②約束やルールを守り、充実した学習環境を整える。</p> <p>(2)豊かな体験活動を通して</p> <p>①目標... ②目標... ③目標...</p> <p>(3)好ましい人間関係づくりを通して</p> <p>①相手の立場に立って聞き、何を言おうとしているのかを理解しようとする。</p> <p>②担任自ら自分を語り、児童との温かな関係を築く。</p>	<p>家庭・地域社会との連携</p> <p>①道徳によりて望ましい道徳実践を紹介し、家庭への啓蒙を行う。</p> <p>②保護者会や家庭訪問等の機会を捉え、「家庭用彩の国の道徳」の活用を促す。</p> <p>③地区運動会や神社の行事に参加することにより、地域の文化や自然に触れ、豊かな心性を育てる。</p>	<p>道徳授業公開計画</p> <p>①年度初めの授業参観</p> <p>4.(5)家族愛 学級の道徳教育の基本方針を知ってもらう。</p> <p>②〇〇小祭り(学校公開日)</p> <p>4.(7)獅子愛 「彩の国教育週間」に全校一斉の道徳授業を公開する。</p> <p>③年度末保護者会</p> <p>1.(6)自己の伸長 一年間の道徳性の伸長を見ていただく機会とする。</p> <p>※展開中に保護者が参加できるような活動を取り入れる。</p>

【道徳の時間 年間指導計画の例】

平成〇〇年度 第5学年	道徳の時間 年間指導計画		〇口市立△△小学校
4	自分の力を信じて	天女再び宇宙へ 1-(6)自分のよさに気づき、それを伸ばし、生かそうとする態度を育てる。	<p>展開の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千秋さんが一歩もむだにできないんだわ」と30種目の実験に取り組んでいるのはどんな気持ちからでしょうか。 ・千秋さんががんばったのは、どのような気持ちからでしょうか。 ・宇宙での仕事をこなすには、実験結果を持ち帰った千秋さんは、どんなことを考えているのでしょうか。 ・自分の力を出し切ってがんばっていることについて話し合ってみよう。
受け継がれる命	縁側のおじいちゃん和我	3-(1)生命がかけがえのないものであること	<p>他の教育活動との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級活動 (4月) ○学級目標をつくらう (体育) (通年) ○理科 (4月) 春のしぜんにとびだそう
扱う主題、資料、ねらいと展開の概要、関連を確認します			
5	自分を見つめて	心のフレッキー「くつぞろえ」 1-(1)自分の生活を振り返り、内省するとともに、落ち着いてよく考えながら行動しようとする態度を育てる。	<p>これからの生き方について考えて見よう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家でも学校でも靴揃えのことを言われ、どんな気持ちになったのでしょうか。 ・脱ぎ捨てられた靴を拾い上げ、向きを変えながらどんなことを考えたのでしょうか。 ・父に笑顔で話しかけられ、元気に返事ができたのは、靴揃えのどんな意味がわかったからでしょうか。 ・自分自身の生活を振り返り、大切にしていきたいことについて考えてみましょう。
先人の生き方に学ぶ	こころを高く生かす	4-(7)先人の努力を知り、自分の郷土や国を愛そうとする心情を育てる。	<p>外国の人たちの評判を聞いて、大介はどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大介は何を不安に感じているのでしょうか。 ・渋沢栄一の生き方から、大介はどんなことを学んだのでしょうか。 ・自分たちの住んでいる郷土のすてきなところを話し合ってみよう。
夢に向か	日友からのプレゼント	1-(2)夢をもち続けることと大切さを知り、夢に向かって希望をもって努力しようとする心情を育てる。	<p>私はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が何をやりたか知らなくなったり何となく過ごしていた私は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・小学校の頃の将来の夢をもう一度読み返してみようと思った私は、心の中どんなことを考えていたのでしょうか。 ・自分の夢について、考えてみましょう。
みんなの約束	インシヤルの落書き	4-(2)公徳心をもって法を愛する心性を育てる。	<p>外国の人たちの評判を聞いて、大介はどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大介は何を不安に感じているのでしょうか。 ・渋沢栄一の生き方から、大介はどんなことを学んだのでしょうか。 ・自分たちの住んでいる郷土のすてきなところを話し合ってみよう。

④ 道徳の時間の年間指導計画 ～自校の教育計画から～

道徳の時間の年間指導計画を参照して、授業の実施時期と扱う主題、資料、展開の概要、他の教育活動との関連等を確認します(学習指導要領解説道徳編第4章第3節)。

▶道徳の時間の年間指導計画

道徳の時間の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童生徒の発達に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画。

(4) 道徳の時間の指導のねらい

道徳の時間のねらいについて、小・中学校学習指導要領は次のように示しています。つまり、道徳の時間のねらいは、次の4つに要約することができます。

① 計画的、発展的に指導する時間

全教育活動で行われる道徳教育との関連を明確にして、児童生徒の発達段階に即しながら道徳的価値を見通しのある計画をもって指導する時間です。

② 学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する時間

各教科や外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などで行われる道徳教育を、調和的に補充、深化、統合する時間でもあります。道徳的諸価値を、全体にわたって人間としての在り方や生き方という視点から捉え直し、自分のものとして発展させていく時間です。

③ 道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え(それに基づいた人間としての生き方についての自覚)を深める時間

道徳的価値の自覚については、発達の段階に応じて多様に考えられますが、次の3つを押さえておく必要があります。

▶道徳的価値についての理解

道徳的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

▶自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること

道徳的価値を自分とのかかわりでとらえるようにする。合わせて自己理解を深



めていくようにする。

▶**道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われていくこと**
道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる中で、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。

道徳の時間は、道徳的価値に裏打ちされた、人間としての生き方についての自覚と同時に自己の生き方についての考えを深める時間なのです。

④ 道徳的実践力を育成する時間

道徳的実践の基盤となる道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度の内的な力としての道徳的実践力を育成する時間です。また、実践を繰り返すことによって道徳的実践力も高まります。



2 道徳の時間の授業づくり（学習指導案の作成）

(1) 主題の構成と主題名の設定

まず、主題を構成することから始まります。主題とは、どのような道徳的価値をねらいとし、どのように資料を活用するかを構想する指導のまとまりで、「ねらい」と、それを達成するための「資料」によって構成されます。

主題を構成するには、児童生徒の具体的な生活や意識の実態を的確に把握した上で、まず、道徳の時間にねらう一定の道徳的価値を設定します。次に、そのねらいを達成するにふさわしい資料を選び、その上でこれらを組み合わせ、何をどのように指導すべきかをはっきりさせた「展開の大要」（学習指導過程）を考えていきます。

主題が構成されると、これに対する名称が付けられます。これが**主題名**です。

主題名は、例えば、「よく考えて」「困った人の身になって」「長所を生かす」「あいさつの大切さ」などのように、主題のねらいが捉えやすいよう表現を工夫するとともに、できるだけ簡潔に表現するようにします（学習指導要領解説道徳編第5章第2節）。

(2) ねらいの明確化・資料の吟味

年間指導計画に基づき、児童生徒の実態を踏まえて、本時のねらいを決めます。その際、学習指導要領に示されている内容（小学校低学年16項目、中学年18項目、高学年22項目、中学校24項目）を十分生かすようにします。

次に、ねらいに沿った資料を選びます。一般には「読み物資料」が広く使われていますが、取材した郷土資料、地域住民が実際に児童生徒に語り聞かせる生きた教材、情報通信ネットワークを利用した教材、実話、写真、劇、漫画、紙芝居などの多様なものがあります。

いずれにしても、児童生徒の発達段階を考えて、ねらいを達成するためにはどのような資料を用いるのが最もよいか、次のような資料の条件（要件）に照らして十分検討する必要があります（学習指導要領解説道徳編第5章第4節）。

■道徳の時間に用いられる教材の具備すべき条件

- ア 人間尊重の精神にかなうもの
- イ ねらいを達成するのにふさわしいもの
- ウ 児童生徒の興味や関心、発達の段階に応じたもの
- エ 多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの
- オ 特定の価値観に偏しない中立的なもの



★児童生徒がより学習に意欲的に取り組み、学習への充実感を持ち、道徳的価値の自覚を深めることができるようにするために、さらに次のような要件を具備する教材を選択するよう心掛けます。

- ア 児童の感性に訴え、感動を覚えるようなもの
- イ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの
- ウ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えさせられるもの
- エ 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの
- オ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの
- カ 多様で発展的な学習活動を可能にするもの

資料が決まれば、次にその資料の吟味（分析）をします。資料に精通していることが効果的な授業を進めることにつながります。

資料吟味（資料分析）に当たっては、まず① ねらいとする価値を念頭に置いて、資料そのものを読み抜くことです。一つの資料の中には、いくつかの内容項目が含まれていることがありますが、それらの中からねらいとする内容項目に絞り、読み込んでいくことが大切です。

次に、② 資料の中で児童生徒に最も話し合いたい場面（多様な感じ方、考え方を引き出すことができる部分）を特定します。そして、③ 話合いのきっかけを効果的に投げ掛けるための発問を考えます。児童生徒の反応を予想し、話合いを深めるための補助発問等も考え

ます。話合いの前提となる場面の条件や状況等を明らかにし、話合いのきっかけを投げ掛ける前の発問等も検討します。このような視点をもって繰り返し読むことが資料の吟味となります（学習指導要領解説道徳編第5章第2節）。

【道徳の時間の授業づくり】学習指導案の作成手順

1 **ねらいを確認する**

年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、指導の内容や教師の指導の意図を明らかにする。

2 **指導の要点を明確にする**

ねらいに関する児童生徒の実態、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動における指導との関連も考慮し指導の要点を明確にする。

3 **資料を吟味する**

活用する資料について、ねらいとのかかわりで道徳的価値がどのように含まれているか、児童生徒の実態に適合しているか、児童生徒の学習意欲を引き出すことができるか、さらに、授業に広がりや深まりをもたせることが可能かどうかなどの観点から検討を加える。

4 **児童生徒の感じ方・考え方を予測し、主な発問を考える**

ねらいや指導内容を及び資料について、児童生徒がどのように感じたり、考えたりするのかを具体的に予測し、ねらいに迫るための発問を考える。

5 **学習指導過程（展開の概要）を考える**

ねらい、児童生徒の実態、資料の内容などから、授業の流れの中心となる展開の段階について考え、児童生徒の道徳的価値の自覚を一層深めるためにはどのように指導したらよいかを検討する。次に、その展開のための導入、終末はどうあったらよいかを考える。



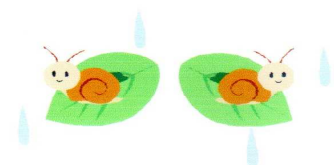
6 **板書計画を立てる**

ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容の整理、児童生徒の感じ方や考え方の整理を視覚的にするために、板書を有効に使用することを検討する。学習指導過程との関連をもたせて計画を立てる。

授業（道徳の時間）

3 道徳の時間の学習指導過程

(1) 基本的な学習指導過程



道徳の時間の学習指導過程は、基本的には教師の創意と工夫によって考えられるべきものです。ここでは、基本的な学習指導過程を示します。これを十分に身に付けた後は、さらに児童生徒に実態に適した授業となるよう、より一層の工夫改善を図りましょう（学習指導要領解説道徳編第5章第3節）。

【道徳の時間の基本的な学習指導過程】

導入

ねらいとする価値への方向付けをする段階です。

「～したことはありませんか。」と発問して児童生徒に自分の生活体験を想起させたり、教師の説話やアンケート調査を用いたりして、ねらいとする価値の方向性に気付かせるように誘導します。

この段階では、できる限り無駄を省き、短時間で行うこと、学習への動機付けを図ることなどに留意しましょう。

展開

前段と後段の二つの段階に分けることができます。

前段は、話し合いを通して、一人一人の感じ方や考え方を明らかにしていく段階です。資料の提示については、読み物資料の場合は教師が範読し、登場人物、場面の状況、あらすじなどの確認をします。「(主人公の) こういう点に注意して聞いてくださいね。」といった範読を聞く場合の観点の指示も忘れてはならないことです。

資料の提示に続いて、まず、教師が用意した主発問によって話し合いが進められます。従って、発問については、資料を選んだ段階で十分に吟味しておく必要があります。ここでは、資料を基に話し合いを深め、主人公の心の迷いを見つめさせながら、児童生徒の多様な価値観を引き出すことが大切です。

後段は、資料を離れて、自分自身の在り方に目を向けさせる段階であり、価値の主體的な自覚を図るところです。従って、「～したことがある」「～されたことがある」あるいは「～しているのを見たことがある」「～されているのを見たことがある」など、自分の経験を基に、そのときの気持ちや考えを振り返り、今までの自分を見つめさせることが大切です。

終末

ねらいとする価値についての整理・まとめを行う段階です。ここで大切なことは、

導 入	価値への方向付け ☆主題に対する興味や関心を高め、学習意欲を喚起する。 ・豊かな体験活動や生活経験の想起 ・アンケート調査の結果等の表示 ・資料に関する絵や写真等の提示 ・主題にかかわる新聞記事、作文、詩等の活用 ・「私たちの道徳」の活用等
	☆中心的な資料によって、児童生徒一人一人が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める。
展 開	価値の追求・把握 ○資料の範読 ○主人公の生き方に共感させる発問 ○話し合いのきっかけを投げ掛ける発問 ・多様な感じ方や考え方を引き出し、話し合わせる。 ※グループやペアによる小集団の話し合い ※動作化、役割演技の活用 ※十分な時間の確保
	価値の主體的な自覚 ○主人公が気付いた道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、発展させていく発問 ・自分自身を振り返り、自分の生き方、在り方を内省する。 ※振り返る視点を明確に示したワークシート等の活用、書く活動
終 末	価値の整理・まとめ ☆まとめをする ・児童生徒の考えの整理や感想発表 ・生活体験の想起 ・教師の説話や体験談 ・地域人材の活用 ・「私たちの道徳」の活用 ・格言、ことわざの活用等

実践しようとする意欲の高まりを認め、励ますことです。実践化を図ることがねらいではありませんので、無理に一定の方向に誘導したり、ある価値を押し付けたり、また、決意表明を強いたりすることは慎むべきです。なお、まとめは、教師の説話や体験談、ことわざや格言、作文、日記、手紙などを用いるようにし、可能な限り児童生徒の心に残る工夫をすることが大切です。



(2) 学習指導案

【学習指導案の例】小学校第2学年で示しますが、様式は小・中ほぼ同じです。

学習指導案は、各学校で創意工夫して作るものです（学習指導要領解説道徳編第5章第2節）。

ここでは、埼玉県小・中学校教育課程編成要領が示す学習指導案の様式を紹介いたします。

作成上の留意点は次のとおりです。

1 主題名

内容を明確にした簡潔な表現にする。内容項目を表記する。

資料名

資料とその出典を明らかにする。

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

学習指導要領とのかかわり、ねらいや指導内容について、基本的な考え方を記述する。

(2) 児童（生徒）の実態について

ねらいとする道徳的価値に関連する児童生徒の実態を記述する。

(3) 資料について

資料の概要や活用する際のポイント、児童生徒の実

第2学年〇組 道徳学習指導案

平成〇年〇月〇日（ ）第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 主題名 やりとげられた喜び 1-(2)
資料名 「お花がかり」 (出典 埼玉県道徳教育教材資料集第4集(埼玉県教育委員会))

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目1-(2)「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかり行う。」は勤勉に、くじけず努力し、自分自身を向上させる児童を育てようとするものである。中学年では1-(2)「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる」、高学年では1-(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」、1-(3)「自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。」に発展していく。

勤勉とは、苦手なことや嫌なことにも粘り強く取り組み、努力し続けることであり、児童が自立し、よりよく生きていくために大切なことである。自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが向上心を育てることにもつながっていく。

(2) 児童の実態について

毎日の生活の中では、自分がやらなければならないことが、自分のやりたいことになっていない場合が多い。児童は、いろいろなことに積極的に取り組もうとするが、やらなければならない勉強や仕事が、思うようにできなかつたり、嫌いなことであつたりすると、頑張ろうとする意欲が失せ、粘り強くやり通すことが大変だと感じてしまう傾向にある。

しかし、児童の心の中には、「自分もできるようになりたい。」「あきらめないでやりたい。」という願いもある。また、最後まで頑張つてやり遂げた経験をもつ児童もいるが、周りからの励ましや賞賛などに支えられている場合が多い。

(3) 資料について

主人公のあきは、ジャンケンで負けて、やりたくなかつたお花係になってしまう。仕事をする気になれず迎えた2日目、お花が枯れそうだと女の子から注意される。放課後ドッジボールに誘われるが、自分はどのようなか迷い始めるのである。

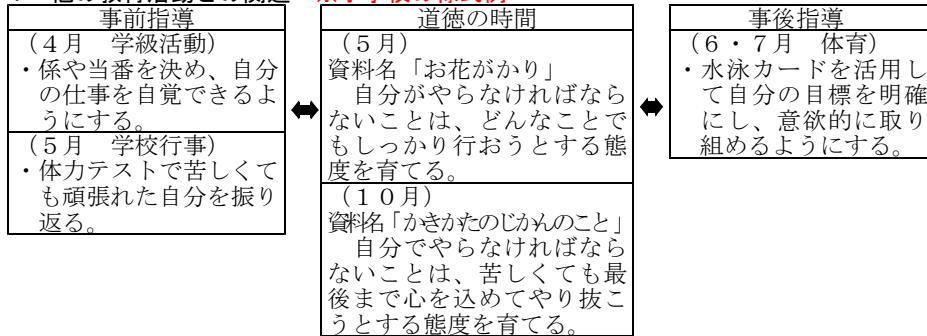
本資料では、お花係なんてやりたくないと思う主人公の気持ちに共感させながら、枯れそうになっている花に心を向けることで、自分を見つめ直し、自分が何をすべきなのかを迷っている主人公について十分に考えさせたい。誰にでも嫌なこととは避けたいという気持ちがあるが、嫌なことでも自分がやらなければならない場合があることに気付かせ、児童の実践への意欲を育てていきたい。最後に、逃げようとしていた気持ちを乗り越え、自分のやるべき仕事はしっかりとできた主人公の気持ちを考えさせ、喜びや満足感を味わわせることで、やらなければならないことはしっかりと行うというねらいに迫っていきたい。

3 ねらい

自分がやらなければならないことは、どんなことでもしっかりと行おうとする態度を育てる。

4 他の教育活動との関連

※小学校の様式例

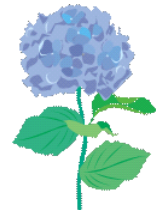


家庭との連携

保護者に学年通信で授業内容を知らせ、連絡帳に児童が努力していることを書いてもらう。頑張っている児童の様子を学年通信で児童や家庭に紹介し、家庭の中でも頑張る機会を大切にしてもらうようにする。

7 板書計画

思考の流れだけでなく、違いや多様性を対比的、構造的に示す工夫などを凝らす。



(3) 指導上の留意点

道徳の時間の実践上、学習指導過程の中で以下の点に留意しましょう。

① 様々な意見を出す

道徳の時間は、多様な価値観に触れることで自分の価値観を明らかにしていく時間です。一つの考え方でなく、様々な意見が出されるように配慮します。

② 教え込みは禁物

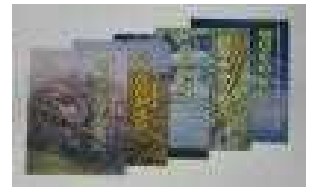
児童生徒がどのようなことを考えているのかを十分に把握し、児童生徒の感性を大事にして授業を進めます。また、結論を急がずにじっくりと考えさせるようにします。教え込むものではありません。

③ 補助発問を用意する

主発問と児童生徒の反応を誘発・刺激するための補助発問を吟味して用意しておきます。発問回数は必要最小限にとどめ、児童生徒に多くを語らせるようにします。

④ 国、県、市町村の資料を活用する

新・心のノート「私たちの道徳」(文部科学省)、「彩の国の道徳」シリーズ(埼玉県教育委員会)など、国や県の刊行物や市町村ごとの郷土資料等を効果的に活用していきます。



⑤ 読み物資料の範読は抑揚を付ける

読み物資料を教師が範読する際は、主人公や登場人物の気持ちが児童生徒に伝わるよう、抑揚を付けて表現を工夫して読み聞かせるようにします。



⑥ 指名の仕方を工夫する

指名の仕方を工夫して、児童生徒一人一人に自分も意見が言えるのだという自信をもたせるように配慮します。

⑦ 書く活動、語り合う活動を設定する

児童生徒の書く活動や語り合う活動など、一人一人の感じ方や考え方を表現する機会を充実し、自らの成長を実感できるようにします。



⑧ 小集団で話し合う機会を設定する

グループによる話し合いを適宜入れるなどして、児童生徒個々の授業への参加意識を高めるための工夫をします。

なお、グループでの話し合いの後は、グループごとに内容を発表するなどして、学級全体に広めることが大切です。



⑨ 児童生徒どうし、教師と児童生徒の人間関係を確立する

「本音」で話し合いができるよう、学級における児童生徒の人間関係、教師との人間関係を確立しておきます。教師は受容的な態度で、児童生徒の意見や考えを温かく受け止めるようにします。

⑩ 話し合える学級の雰囲気をつくる

道徳の時間は、他の意見や考えを聞き、自らの生き方を考える訳ですから、「誰もが自分の考えを言える」学級の雰囲気づくりが大切です。

学校全体で行う道徳教育の「要」を担う大切な授業、道徳の時間。学級担任として着実に授業を実践し、内容の充実に努めましょう

